

定例教育委員会会議録

(令和2年9月8日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会

日 時 令和2年9月8日(火)

9時30分～

場 所 市役所6階 603会議室

署名委員 太田委員、高木委員

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 学力・学習状況調査と授業改善に向けて【資料No.1】 (教育総務課)
2. 令和3年度予算編成について【資料No.2】 (全課)

○ 報 告

1. 諏訪地域の高校の将来像を考える協議会の進捗状況について【資料No.3】 (教育総務課)
2. 9月定例会の補正予算について (教育総務課・生涯学習課)

○ そ の 他

- ・行事等について (各課)
- ・その他

【次回開催予定】 10月7日(水) 定例教育委員会 9時30分～ 6階 605会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

事務局（説明員）

教育部長 城田 守、教育総務課長 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 竹内 良之、
生涯学習課長 山田 勝由紀、スポーツ振興課長 小河原 義友、教育総務課統括主幹 小口 明彦、
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課主査 芳沢 幸祐

<会議録>

○開 会

岩本教育長： 皆さんおはようございます。ご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。ただ今から9月の定例教育委員会を開催いたします。実りのある定例会にしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。本日の署名委員は太田委員さんと高木委員さんをお願いをしたいと思います。最初に私から教育長報告をさせていただきます。

○教育長報告

何点か報告させていただきます。

1. 新型コロナウイルス感染症について

諏訪地方でも新規感染者が発生している状況のなか、今月1日に県は、直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者数が3.64人となり、感染の拡大に警戒が必要であることから、諏訪地域の新型コロナウイルス感染症・感染警戒レベルを「レベル3」に引き上げ、「新型コロナウイルス警報」を発令しました。

このレベル3は、徹底的な感染防止策を講じながら、社会経済活動との両立を図る段階であります。より一層、一人一人が感染予防の行動をとる必要があります。学校においても、引き続き感染防止対策を徹底しながら子どもたちの安全を第一に学校運営を行ってまいりたいと考えております。

2. 2学期の開始について

臨時休校の影響により短縮となった夏季休業も終わり、市内小中学校では2学期が始まっております。コロナ禍の中で迎えた夏休みでありましたが、大きな事故の報告もなく、短いながらも充実した夏休みを過したのではないかと考えております。

また、先生方も夏休み中は完全閉庁日でありましたので、2学期へ向けて英気を養えたのではないかと考えております。例年より短い1学期となり、学習の遅れが心配される場所がありますが、夏季休業の短縮や授業の工夫などにより、今年度中には予定の授業時数を確保できる予定であります。

更に、進学を迎える小学校6年生と中学3年生の希望者には2学期から補習を行うこととしております。8月26日の長地小学校と湊小学校を皮切りに、各小中学校において順次実施してまいります。小学校は算数、中学校は英語、数学を中心に学習支援ソフトなどを活用しながら、各校の実情に合わせて、教員が主体となって実施していきます。現在、小学校6年生が200名、中学3年生が160名、合わせて360名が申し込みをしております。

3. スクール・サポート・スタッフについて

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、業務の増加が見込まれる学校の先生方を支援するため、国の制度拡充を受け、県が配置するスクール・サポート・スタッフが全校に配置されることになりました。

このスクール・サポート・スタッフは、教員の働き方改革の一環として、教員の負担軽減を図ることを目的に、教材等の印刷やテスト等の採点、授業の準備や片付けなどをサポートする職員として、県の任用により配置されるもので、年度当初は4校に配置いただいておりましたが、全校に配置されることになりました。

コロナ対策により消毒作業などの業務が増えている状況を受け、ここで全校への配置が認められたもので、8月から順次任用をはじめており、9月1日には全校へ配置されており、事務補助や消毒作業など、各校のニーズにあった業務を担っていただいております。先生方の負担軽減につながるものと、ありがたく思っております。

4. 岡谷市文化祭の中止について

岡谷市文化祭につきましては、作品展や音楽・演劇といった7演目を、毎年、実行委員会を立ち上げて実施しております。本年度は、6月に第1回実行委員会を開催しましたが、すべての演目の代表者から「新型コロナウイルス感染症拡大のため、本年度は中止したい。」との意向が示されました。

全国的に二次感染が広がってきており、県内でも発症者が増えてきていることや、3密を避けながらの作品制作や発表に向けた練習が困難であることなどが主な理由であります。事務局であります生涯学習課としましても、その意向を尊重し、本年度は全ての演目を中止することといたしました。

なお、各公民館にて行っております文化祭につきましては、作品展に替わる方法として、ロビー展示のように、長期間、作品を入れ替えながら展示する方法にて実施する予定であります。

5. 第68回長野県公民館大会について

当初9月24日、25日の二日間で開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小し、人を集めない形で24日のみ開催することとなりました。

具体的には、パソコンやスマートフォンを使ってオンラインで会議等が開催できる「Zoom（ズーム）」というシステムを利用して講演を視聴し、その内容に基づいてグループ討議を行う予定であります。カノラホールを中継点として、講師であります秋田大学の原教授と県内の各公民館をつないで会議を行ってまいります。

また、当初予定しておりました研修会や分科会につきましては、中止といたしますが、それぞれの内容を「大会のまとめ」として大会資料に掲載し、原教授の講演DVDと一緒に県内各公民館へ配布する予定であります。

公民館活動の原動力であります「集う」ことが満足にできず、公民館職員は苦悩を抱えておりますが、新たな公民館活動の方法を模索し、切り拓いていく良い機会となることを期待しているところであります。

6. 小中学校バレーボール教室について

先月の定例教育委員会で開催についてお話をさせていただきましたが、8月29日（土）にVC長野トライデンツのトップ選手を講師に市民総合体育館において行われました。この教室は、バレーボールのまちづくり実行委員会が主催し、VC長野トライデンツと岡谷市バレーボール協会の共催により行われ、日本バレーボール機構が推進する社会貢献、普及活動の一環として小中学生の競技力向上、普及のために行ったものであります。

午前は、市内小学生の3つのバレーボールチームから児童39名、午後は市内中学校バレーボール部に所属する48名、合わせて87名の子どもたちにご参加いただきました。トライデンツのみなさんには、チーム総動員していただき、監督、選手合わせて20名の参加をいただきました。小学生の部では、実際にボールを使った基礎練習をレベル別に分かれて行い、中学生の部では、初めに全員でストレッチから入り、どこの筋肉がどのように使われるかという、身体の作り方から指導していただきました。

こまめに給水タイムを設けながら、午前・午後通して、5～6人当たり1人のトップ選手がついてくれたおかげで、練習の回転が速く、子どもたちが集中して取り組むことができ、非常に手厚い教室になったのではないかと思います。教室終了時には、子どもたちからの質問コーナーの場を設け、筋肉の付け方、家でできるトレーニングとしてどのようなことをやっていたか、どうしたら背が伸びるかというような質問に、各選手が答える場面もありました。

参加した子どもたちからは、とても楽しかった、勉強になったという声を多数いただき、またチームの監督や顧問の先生、保護者からも大変良い機会になったという感想をいただいております。来年度以降もこうした機会ができればと考えているところです。

7. 第19回岡谷カップ・フレンドシップバレーボール大会 高校生女子の部について

8月30日（日）に行われました「第19回岡谷カップ・フレンドシップバレーボール大会 高校生女子の部」について報告させていただきます。

例年は2日間で行っていた大会であります。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から1日のみとし、参加チームも県内の中南信地区のみの12校からご参加いただき、無観客で開催いたしました。午前中は1セットマッチのリーグ戦、午後は順位別のトーナメント戦で行い、優勝は昨年度の優勝校であった下諏訪向陽高校が2連覇という結果となりました。バレーボールはほとんどの大会が中止となり、高校総体の代替大会もなかったため、参加校からはこの大会が開催され、参加できてよかったとの声をいただきました。

また、この事業の両日とも参加者全員に体育館に入館していただく際に、当日の「健康状態申告書」を提出してもらい、検温や体調確認を行ったうえで実施いたしました。

また、会場の換気や参加者の手洗い、手指の消毒を促し、コロナ対応に留意いたしました。両日ともに大変暑い日となり、熱中症も含めて心配ではありましたが、コロナ禍でイベントや大会が見合わせとなるなか、できる限りの対応のなかで開催ができたのではないかと考えております。

今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、万全の対応を取りながら他の教室や大会が開催できるように取り組んでまいりたいと考えております。

私からは以上であります。

○議 題

1. 学力・学習状況調査と授業改善に向けて (教育総務課)

岩本教育長： 議題1について、事務局より説明をお願いします。

<事務局から学力・学習状況調査について説明。>

- ・全国学力・学習状況調査は小学6年生、中学3年生を対象とする。
- ・今年度は4月16日に予定されていたが新型コロナウイルスの影響により中止となった。
- ・問題は作成されており、有効に活用してほしいとのことで各教育委員会に配布されたため、本市では学力向上推進委員会で、小中学校で解いて採点を行い、これからの授業改善に生かそうということが決まり、各校で取り組んでいるところ。
- ・10月に県教委から指導主事を招いて、本市で行った学力・学習状況調査の採点結果を基に、これからの授業改善に向けての方向性を指導していただく機会としたい。

<令和2年度学力・学習状況調査 小学校第6学年国語の一部を会議参加者で実際に解く。約5分>

岩本教育長： ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

太田委員： 国語は何分で解くのですか。

事務局： 小学生は全問を45分で解答します。

小平委員： 実生活で役に立ちそうとか、実際に社会に出たときに取り組まなければいけないような内容になっていて、問題が上手くできているなど思いました。

事務局： 今日はこれを含めて4問やっただけで予定ですが、今、小平委員さんが言われたように、実生活とのつながりというものが、過去の問題とは比べ物にならないくらい意識して作られています。そういう学びに変えていかなければならないということの現れです。

太田委員： 竹内先生(事務局説明員)が解説してくださったというのもあるのですが、基本的に国語の問題は読んで解いていくので、読解力みたいなものが今まで中心だったのかなと思いますが、当然、読んで回答するのですが、プロセスを通して頭の中が考えを組み立てることとか、自分で文章を作るときに、どういうところを考えなければいけないのかなど、そういうところまで組み込まれており、過去の問題とは違うなど感じました。

高木委員： 自分が子供ころ問題を解いていた時もそうなのですが、先を見通して問題を解いていくことが必要なのだなというのを、視覚的にも言葉だけではなく3次元的に見て、問題がどのように展開していくのか、先まで見通したうえで解いていくことが必要なのだなと思いました。

事務局： この問題は3つの資料がありますが、複数の資料というのがキーワードになります。複数の資料を提示すると、子供たちの読み解きが低くなってきます。ですから、複数の資料の中から自分の必要な情報を読み取り、それを自分の中で判断し、構成して作り上げていくことが非常に大事になります。

<令和2年度学力・学習状況調査 小学校第6学年算数の一部を会議参加者で実際に解く。約3分>

東京2020オリンピック・パラリンピックの記録・競技場をテーマにした問題

藤森委員： 今回の出題のようなことは、大人になってからも生活の中にありますよね。ただ数式で求めるだけの問題で150×1.3ではそれだけの話なのですが、出題のように身近な事柄と結び付けて、

ストーリー性があってそこから答えを導き出していくというのは、子どもたちが算数や数学に取り組みやすく、興味を持って学べるのではないかと思います。

草間職務代理者： ストーリー性を感じるのと、単に数字だけでなく、数字が身長は何倍であるとか、マラソンの42.195kmなど、実感できる大きさや距離を使い、子どもたちにとっても実際に想像できる数字を扱っているのが親しみやすいのではないかと思います。

事務局： 文科省がとても大事にしているのが、日常生活の事象における量の大きさを実感することです。どうしてもその部分が足りなくて、学校訪問でもその話題が頻繁にあります。算数の教科書に載っている量を実感できる量感を感じるための問題は、どういう問題を作ればよいか。学校現場でも実感を伴って、量感を感じる授業にしていきたいのは大事なことだと思います。

太田委員： 私もどちらかというと算数・数学は得手ではなかったというか、今でも得手ではないのですが、得手な人というのは、たぶん、数字を使った論理の組み立てが上手い人なのだと思います。この問題は、算数というのは論理なのだというのが実感できる問題だと思います。

藤森委員： 走高跳のオリンピック記録とか国立競技場の面積とか雑学的な豆知識があるのは知的好奇心をそそりますよね。

高木委員： 以前の問題はもっとストレートに問題に入っていたと思うのですが、今は広いところから入って行って、それぞれのポイントに入っていくという感じですかね。私は最初、問題を見たときに違う方に頭がちょっと行きそうになってしまったのを、問題はこっちかと自分の頭を引き戻したのですが、そう意味でも今はすごく情報が多いので、問題のポイントを見つけるということも求められているのではないかなと感じます。

事務局： 教科の領域というのは、あくまで教科というフレームはあるのだけれども、それは社会が定めたものであって、学びの道筋というのは、教科の領域の枠を取り払いながら、うまく融合させながら繋ぐのがカリキュラムマネジメントです。学習指導要領の指導の根幹に位置しているのですが、今回、小学校の算数と国語の問題を見ていただいた中にも、教科の枠を越えた匂いを感じてもらえたらと思います。

<令和2年度学力・学習状況調査 中学校第3学年国語の一部を会議参加者で実際に解く。約5分>

事務局： この問題なのですけれども、根拠を明確にして自分の考えを持つこと、というのがひとつ大きな課題です。ただ答えを書くだけでなく、理由を記述しつつ、という根拠を求めたときに子どもたちの正答率はガクンと落ちてしまいます。文章を展開し、情報を整理し内容を理解する。つまりどの情報を使って考えるかというのがポイントになります。

<令和2年度学力・学習状況調査 中学校第3学年数学の一部を会議参加者で実際に解く。約5分>
連立方程式を解くではなく、連立方程式を解く過程を振り返り考察する問題

太田委員： 私が中学生だったら、やらずに飛ばす問題です…。

藤森委員： 私は最後の問題の答えは合っていたのですけれども、なんでこうなるのか、過程はよく分からず勘が当たったという感じ。

事務局： それは実はすごく大事なことで、問題を読んで答えを推測する能力も重要なのです。

草間職務代理者： これからの数学は式だけではなくて、文章を読んで理解して説明ができないと答えが導き出せないということですね。

小平委員： 論理的思考というのか、学校訪問で授業を拝見したときに、ひっ算をすごく丁寧に理論を説明して、この問題にもそういうことが活かしているのではないかと思います。

事務局： この問題にも実際2種類の連立方程式の解き方が出てきています。例えば、山の頂点に答えがあるとして、今まではこの道を通って頂上に行きなさいというやり方でしたが、今は答えに向かう登山道(過程)は10も20もあり、人によって頂上に行く登山道(過程)は別々なわけで、どの過程でも正解ですよ。貴方なりの答えを出した過程はどれですか。それを答えなさい。という手法になっています。

太田委員： 学力・学習状況調査の問題は各学校で活用し、採点するとのことですが、解いた結果や問題の解説を行うのですか。

事務局： 例年ですと、採点した結果の個票が送付されてくるのですが、今年は来ないのである程度やり終わってから、問題の解説はしていく必要があると思います。一人一人の躓きが見えるように、誤答分析、解答類型分析などが行われます。

藤森委員： 本来は全国一斉に行われる予定でしたが、本来の採点は誰が行うものなのでしょうか。

事務局： 本来ですと採点は業者が行います。

藤森委員： 記述問題が増えてきているのは良いと思いますが、記述問題は採点者によってばらつきがあったりすると思うのですが、統一基準みたいなものはあるのでしょうか。

事務局： 入試でもけっこう話題になりますが、記述問題化していくことの課題は採点基準をどうするかだと思います。学力・学習状況調査でも、今はやらなくなったのですが、数年前まで事前採点を行っていました。国で結果が出るのが試験後数か月と時間がかかるため、事前採点すれば早い段階で分析ができて授業に生かせるので岡谷市でも県教委が来てくれて、採点基準を指示してもらいながら先生たちが事前に採点を行うのですが、後に国が採点したものとズレが生じますので、記述問題には採点者によって多少の違いはあります。

小平委員： 大学入試でも採点結果によって後から合格になったというニュースもありますし、採点は大変なことなのですね。

岩本教育長： 実際に皆さんに問題を解いていただいて、これから子どもたちにどんな力をつけていかなければいけないか、という根本が分かっていたかだと思います。今までとは違った学力が必要とされています。生き抜くためにはどういう学力をつけたら良いか。これは子どもだけではなく、先生方がまずしっかりと把握していく必要があります。それに基づいた授業改善をしていかないと、このような良問があっても子どもたちは解けません。まず先生方がこれからの学力管理、学力というのはこういったものが大事だよというものをしっかりと把握し、それに基づいた授業改善を積み重ねていく中で、徐々に子どもたちがこういった問題に抵抗感なく取り組めるようになるのが大事なかなと思います。

例えば算数・数学は、今までは答えは一つと言われてきました。ところが、これからの色々な難しい社会情勢や社会環境の中では、答えは一つとは言い切れなくなってきました。いくつかの答えの中から選択してやっていく方が良いのではないかという考えが出てきました。算数の問題も、「ただ一つこれが正解だよ。」と言ってやるような授業から、「やり方はこんなにたくさんあって、答えは一つかも知れないけれども、やり方はいくつもあって、この解き方はこういう場面ではとても良い。でもこういう場面ではこっちの解きの方が良いよ。」というような、そういう思考、多様性というか、そういったものが非常に求められています。授業で問題一つにしても、「これが良いよ。」ではなく「これも良いところがある。これも良いところがある。でもこれはこういう場面ではちょっと難しいかも…」と子どもの中にいくつかの多様性をしっかりと育む。そして答えは場合によっては二つあるかもしれないし、三つある時だってあるかもしれません。

先ほどの中学校の国語の問題にありましたが、反意語の話がそうでしたよね。賛成の反意語は反対なのですが、視点を変えてみれば「明確に自分の意見を持っている」という点では同意語になるため、答えは二つということになります。つまり視点の変え方で答えが違って来るわけですから、それをすべての教科の中でやっていく。特に私は算数・数学が専門ですので、これからそういった見方、考え方を培っていく。それが数学的な見方、考え方ですので、やっとな目の目が当たってきたなど、とても嬉しく思います。

これからも委員さん方には、学校訪問では是非こういった授業の基盤となるような授業が行われているかどうか、よくご覧いただいてまたご意見を頂けたらと思います。

2. 令和3年度予算編成について（教育総務課・生涯学習課・スポーツ振興課）

岩本教育長： それでは議題2について事務局から説明をお願いします。

<事務局から令和3年度予算編成について説明。>

岩本教育長： 何かご質問、ご意見ありましたら、よろしくお願ひいたします。

小平委員： 経費削減に全力で取り組むということなのですが、教育関係ではこういったところで削減に取り組むのでしょうか。

事務局： 歳入あつての支出のバランスを取っていかねばなりません。限りある予算の中でアイデアと工夫の中で経費を削減していくというような形になるかと思いますが、予算を削りすぎてしまうと、必要な教育に支障があったり、学校運営に支障がありますので事務的に削減するのではなく、必要な予算はしっかりと要求していくのが大事だと思います。

小平委員： 子どもたちや困っている方は最優先に考えていただけたらと思います。

高木委員： スクール・サポート・スタッフが今年度中に全校に配置され、ありがたいことだと思います。来年度予算は必要最小限の人員配置ということで、教育委員会はどうなるのだろうと、とても心配になったのですが、今、配置されている方々はスクール・サポート・スタッフに限らず、来年度も配置をお願いしたいと思います。

事務局： 来年度の人員体制につきましては、教育委員会としては現状の人員を維持できるような形で要望をしているところです。色々な部分、例えばGIGAスクールなどで今以上に対応するスタッフも必要ですので要望している状況です。

草間職務代理者： 新型コロナウイルスの影響により各種事業が中止になっていますが、事業の評価はどのようにお考えでしょうか。

事務局： 今年度は新型コロナウイルスの影響で、補正予算で対応したり、特別な一年となっています。市単独では、なかなか対応していくのが難しく、国の交付金を活用しながら対応しています。来年の予算を編成していく中で、来年度も新型コロナウイルスの影響がまだまだ不透明な部分が多く、来年度以前に、今年度も今後、どうなっていくのか予想できない部分も多い中で、必要なものは予算要求していく必要があるかと思っています。国の交付金も前倒しされるということもあるので、場合によっては3月になって追加で補正予算をお願いするなども考えられますが、現時点で想定されるものは9月末までに予算見積もりはするのですけれども、それ以後にも対応が必要になることがあった場合には、追加で予算要求して対応していく予定です。

太田委員： 厳しい状況下の中なので、慣習で続いてきたものを思い切って見直すチャンスでもあるかと思っています。教育に関してはそういったものは少ないかと思いますが、市全体ではそういったこともあるかと思うのでしっかり見直す機会にさせていただけたらと思います。

岩本教育長： 色々なご意見ありがとうございました。教育は人なりと言いますが、人員配置というものは、非常に大きいかと思っています。教育はこれからの将来を決めていく大事なものでありますので、 π が少ないのは百も承知ですので、メリハリのある予算編成を教育委員会として、将来を見据えながらしっかり考えていきたいと思っています。

また教育委員の皆さんにも応援をよろしくお願ひしたいと思います。また具体的なことが決まりましたらご報告できればと思います。

本日の議題は以上となりますので、引き続き報告事項に入ります。

○報告

1. 諏訪地域の高校の将来像を考える協議会進捗状況について（教育総務課）

岩本教育長： 報告事項1について事務局より説明をお願いします。

<諏訪地域の高校の将来像を考える協議会進捗状況について説明。>

岩本教育長： これからの高校の在り方について、色々な団体の代表者が集まって、ご意見をいただきました。今後、具体的なところにはいったときには、さらに色々なご意見が出るかと思っています。今のところは夢や希望を描き、こういう高校になってほしいというような意見が出ております。委員の皆さんもご意見ありましたら、よろしくお願ひいたします。

高木委員： 10月～11月には素案をまとめ、地域住民に公表するとの予定ですが、具体的な案ができるということですか。

太田委員： 諏訪で意見を取りまとめて、県に要望書を提出して、最後は県がそれを踏まえて決定するという形になる訳ですね。

岩本教育長： 諏訪圏域から県外や域外の高校へ進学する子どもがいるわけですが、地元の子は地元で育てる。地元で学べるという高校を大事に、つまり魅力ある高校づくりを進めて欲しいといったような意見が協議会で出ています。諏訪から山梨やほかの地域へ出て行ってしまう子どもたちが多い実情

の中で、具体的に魅力のある高校の中身についてはどういうものが大事かというのを取りまとめて、県に出していく。県はそれを受けて、この高校はこのようにしていくというのを出してくるのではないかと思います。この件についてはまたご報告させていただきます。私も教育委員さんからご意見をいただきたいと思います。

それでは、報告事項2へ移ります。

2. 9月定例会の補正予算について (教育総務課・生涯学習課)

岩本教育長： 報告事項2について事務局より説明をお願いします。

<事務局から9月定例会の補正予算について説明。>

岩本教育長： 何かご質問ありましたら、よろしく願いいたします。

高木委員： 私、生涯学習課が補正予算で購入した読み聴かせ用のマイク、スピーカー、飛沫飛散防止スクリーンを図書館で使わせていただきました。長い話だとマスクをつけながらでは無理ですし、表情を見ながら聴くというのはより楽しく話に入っていけるので、とてもありがたいと思っています。高齢者施設では耳が遠い方もいるので、マイクもとてもありがたいです。

小平委員： 素晴らしい配慮をありがとうございます。学校へ訪問して熱心に活動されている方々が、より活動しやすい環境を作っていただけて良かったと思います。ありがとうございます。

岩本教育長： よろしいでしょうか。報告事項は以上となります。

次にその他ということで、事務局からお願いします。

○その他

- ・行事等について (各課)

<各課より行事予定について説明>

- ・その他

岩本教育長： そのほか教育委員さんの方からなにかあれば、お願いいたします。

ほかに無いようでしたら、事務局より次回の開催予定についてお願いします。

<次回開催日確認>

岩本教育長： それでは以上をもちまして、9月の定例教育委員会を終了とします。

午前11時20分終了

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

令和 2年10月 7日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

高木千奈美

署 名 委 員

太田博次

調 製 職 員

城田 守